



高校の統廃合問題が県議会でも大きな問題になる中、「高校の統廃合は許さない 10・1 県民のつどい」には、立場の違いを超えて331人が集まりました。高校生の合唱、映画『月あかりの下で』の紹介の後、来賓が挨拶。青木県議は前日の県議会の様子を紹介し「これからも一生懸命がんばる」。西村県議は「これまで、皆さんとお付き合いはなかったが、このこと(統廃合)は黙ってられない」。中西市議(甲賀)は「1300度上がる登り窯のように、信楽の熱意で運動を広げたい」と。主催者の挨拶と報告の後、湖北・彦根・信楽の3地域からの報告とフロア発言が続きました。長浜北高1年の植田さんが「僕は傍観者でいたくはありません」。集会アピールを採択し、最後に10万筆署名が呼びかけられました。この集いは、湖北、彦根、信楽の3つのたたきが合流し、全県運動のあらたな出発点になりました。



県会議員 青木さん

立ち止まって考える議員が増えてきた。県議会の過半数を握っている自民党の中で、統廃合は立ち止まって考えていこうという議員が、少しずつ増えてきた。28日に、私も議会質問をした。長浜の主要5団体、市議会、PTAなどの連合自治会、PTAなどから意見書が出た。特に、小中学校の校長先生方が「我々の意見、子どもたちの意見をしっかりと取り入れて、みんなで子どもを育てよう。高校をつくる」との意見だ。長浜は、全県の皆さんがこの統廃合にノーを突きつけている現実を教育長さんどう思っか、と質問した。ななせ末松教育長は頑固でなかなか首を縦に振らない。ベストは今の状況だが一度長浜の5団体と協議を、と話した。この12月に、何らかの動きが出てくるのではないかと。最終的には、地域の思いの中で、県議会として決める。私は、出馬する前から統廃合には反対していた。これから一生懸命頑張る。この事は黙ってられない。ここへ上から一歩進んでほしい。125年の長い歴史をもつ彦根西高。いま、先方は「学びの共同体」で、意欲ある生徒を一生懸命育てようとしている。昨日、中沢議員が「学びの共同体」について、詳しく質問された。しかし、成果・実績を並べながら、それを継承しようとは、ひと言も言わなかった。非常に残念だった。町の中から、子どもが消えていくことに、どれだけの不安を感じるかは、地元のみならず、心配している。それなのに「末松さんどうですか。西高はあなたの地域ですよ」と言っても答はなかった。知事は、この教育の問題ではダメです。この一点にかけて、皆さんと頑張らせていただきます。



県会議員 西村さん

気をつけてほしい。最後の最後まで統廃合の白紙撤回を求めて行きたい。地域と学校を大事にする心がなくなった。昨年の中頃、ある新聞は「今年度中に計画がまとまる」と断定した。1年経った今、県立高校再編案「道険し」と変わった。県教委は、最終案をだす見通しも立たない。この状況を生み出したのは、1つは地域と学校を大事にする滋賀県民と



市会議員(甲賀) 中西さん

滋賀の宝。信楽焼は滋賀の宝。技の原点は信楽高にあり。信楽は動きが鈍いと言われている。だんだん温度が1300度以上に上がる。登り窯のように、信楽、甲賀市の熱意で炊きあげたい。陶器業界、PTA、挙げて、長浜・彦根に負けない運動を広げたい。そう思っている矢先に、今日のつどいがあると聞いて、はせ参じてきた。昨日は、教育長と嘉田知事のもとへ7000余りの署名をもち参上した。信楽焼は、甲賀市の宝、滋賀の宝だ。その信楽の技の原点は信楽高校にある。この伝統工芸品をさらに広げていく必要がある。皆さんと手を携えて、信楽高校を守りたい。話には聞きにくい。過去・現在・未来をみつめる、不思議で楽しい集いだった。

傍観者でいたくない

僕は、この春に100年の歴史のある、長浜北高校に入學しました。入学式の時に、宋校長先生の言葉に胸が高鳴りました。しかし、高校統廃合の波にのまれて、長浜北高としての歴史は失われてしまっています。



長浜北高校 植田さん

長浜北高を卒業しても、自分の母校はなくなってしまう。僕は、歴史ある長浜北高が幕を閉じるときに傍観者でいたくありません。そのためにも、ここにいらっしゃる皆さんの力を必要とします。どうか、長浜北高校の歴史が続くように、よろしくお祈りします。

滋賀の宝。信楽焼は滋賀の宝。技の原点は信楽高にあり。信楽は動きが鈍いと言われている。だんだん温度が1300度以上に上がる。登り窯のように、信楽、甲賀市の熱意で炊きあげたい。陶器業界、PTA、挙げて、長浜・彦根に負けない運動を広げたい。そう思っている矢先に、今日のつどいがあると聞いて、はせ参じてきた。昨日は、教育長と嘉田知事のもとへ7000余りの署名をもち参上した。信楽焼は、甲賀市の宝、滋賀の宝だ。その信楽の技の原点は信楽高校にある。この伝統工芸品をさらに広げていく必要がある。皆さんと手を携えて、信楽高校を守りたい。話には聞きにくい。過去・現在・未来をみつめる、不思議で楽しい集いだった。

昨年の中頃、ある新聞は「今年度中に計画がまとまる」と断定した。1年経った今、県立高校再編案「道険し」と変わった。県教委は、最終案をだす見通しも立たない。この状況を生み出したのは、1つは地域と学校を大事にする滋賀県民と

滋賀の宝。信楽焼は滋賀の宝。技の原点は信楽高にあり。信楽は動きが鈍いと言われている。だんだん温度が1300度以上に上がる。登り窯のように、信楽、甲賀市の熱意で炊きあげたい。陶器業界、PTA、挙げて、長浜・彦根に負けない運動を広げたい。そう思っている矢先に、今日のつどいがあると聞いて、はせ参じてきた。昨日は、教育長と嘉田知事のもとへ7000余りの署名をもち参上した。信楽焼は、甲賀市の宝、滋賀の宝だ。その信楽の技の原点は信楽高校にある。この伝統工芸品をさらに広げていく必要がある。皆さんと手を携えて、信楽高校を守りたい。話には聞きにくい。過去・現在・未来をみつめる、不思議で楽しい集いだった。

滋賀の宝。信楽焼は滋賀の宝。技の原点は信楽高にあり。信楽は動きが鈍いと言われている。だんだん温度が1300度以上に上がる。登り窯のように、信楽、甲賀市の熱意で炊きあげたい。陶器業界、PTA、挙げて、長浜・彦根に負けない運動を広げたい。そう思っている矢先に、今日のつどいがあると聞いて、はせ参じてきた。昨日は、教育長と嘉田知事のもとへ7000余りの署名をもち参上した。信楽焼は、甲賀市の宝、滋賀の宝だ。その信楽の技の原点は信楽高校にある。この伝統工芸品をさらに広げていく必要がある。皆さんと手を携えて、信楽高校を守りたい。話には聞きにくい。過去・現在・未来をみつめる、不思議で楽しい集いだった。

滋賀の宝。信楽焼は滋賀の宝。技の原点は信楽高にあり。信楽は動きが鈍いと言われている。だんだん温度が1300度以上に上がる。登り窯のように、信楽、甲賀市の熱意で炊きあげたい。陶器業界、PTA、挙げて、長浜・彦根に負けない運動を広げたい。そう思っている矢先に、今日のつどいがあると聞いて、はせ参じてきた。昨日は、教育長と嘉田知事のもとへ7000余りの署名をもち参上した。信楽焼は、甲賀市の宝、滋賀の宝だ。その信楽の技の原点は信楽高校にある。この伝統工芸品をさらに広げていく必要がある。皆さんと手を携えて、信楽高校を守りたい。話には聞きにくい。過去・現在・未来をみつめる、不思議で楽しい集いだった。

湖北彦根信楽三つの運動が合流 全県へ



統廃合を考える会 杉原さん

滋賀の宝。信楽焼は滋賀の宝。技の原点は信楽高にあり。信楽は動きが鈍いと言われている。だんだん温度が1300度以上に上がる。登り窯のように、信楽、甲賀市の熱意で炊きあげたい。陶器業界、PTA、挙げて、長浜・彦根に負けない運動を広げたい。そう思っている矢先に、今日のつどいがあると聞いて、はせ参じてきた。昨日は、教育長と嘉田知事のもとへ7000余りの署名をもち参上した。信楽焼は、甲賀市の宝、滋賀の宝だ。その信楽の技の原点は信楽高校にある。この伝統工芸品をさらに広げていく必要がある。皆さんと手を携えて、信楽高校を守りたい。話には聞きにくい。過去・現在・未来をみつめる、不思議で楽しい集いだった。

滋賀の宝。信楽焼は滋賀の宝。技の原点は信楽高にあり。信楽は動きが鈍いと言われている。だんだん温度が1300度以上に上がる。登り窯のように、信楽、甲賀市の熱意で炊きあげたい。陶器業界、PTA、挙げて、長浜・彦根に負けない運動を広げたい。そう思っている矢先に、今日のつどいがあると聞いて、はせ参じてきた。昨日は、教育長と嘉田知事のもとへ7000余りの署名をもち参上した。信楽焼は、甲賀市の宝、滋賀の宝だ。その信楽の技の原点は信楽高校にある。この伝統工芸品をさらに広げていく必要がある。皆さんと手を携えて、信楽高校を守りたい。話には聞きにくい。過去・現在・未来をみつめる、不思議で楽しい集いだった。

9月11日、彦根西高の同窓会館に84才から44才までの18人が集まった。同校の存続を求める元教職員が集い、当時の教頭も学年主任もいる。みんな昔と変わらない。またたく間に25年前にタイムスリップした。まるで学年会議職員会議だ。西高生の集い、先生への要求と授業改革、生徒会、学年委員会、自主運営の平和修学旅行、自主運営の平和修学旅行、運動、文化祭、分団演劇、体育祭、135人のムカデ競争など、激論しながら前に進んだ。この学校で教師の礎を築いた人も多い。青春のノスタルジアか。Hさんは「教師生活37年ほとんどが西高。ノスタルジアと言われても西高は残したい」。Tさんは「西高は教員生活で最も誇りに思う学校。西高と母校長北がなくなれば61年の人生の欠損だ。エゴとかノスタルジアと非難するが、学校を大事にする思いは本人がもつ権利だ。原発事故でふるさとに帰れない人の生存権と同じ」。エゴ論の論破に溜飲が下がる。学校を大事にするのは人間と教育を大事にする。と。企業への奨励金を湯水のように使い、大事な学校をつぶす。こちらの方がよほどエゴだ。「この同窓会館は僕が設計した」と、トイレの棚は、授業が終了そのまますたてに設計した。自慢話が出る。校舎には、みんなの思いが凝縮している。校舎建設の時に、建築委員会が要望をまとめた。教育も校舎もみんながつくる。「自分の教師のベースになっている」。政治の都合で西高をなくすのは許せない。「自分ができるのは署名くらい」。話は聞きにくい。過去・現在・未来をみつめる、不思議で楽しい集いだった。

10・1 県民のつどい アピール

滋賀県の北半分から 定時制の灯を消してはならない



長浜養護学校 太田さん

分教室案で大規模化
解消されない

長浜養護学校は、児童生徒が加速度的に増え、特別教室をHR教室に転用している。これ以上の受け入れは不可能だ。平成25年度伊吹高校の分教室案が提案された。これでは、長浜養護の大規模化は解消されない。27年度の高等部の生徒数は22

9人、分教室に48人、本校には180人が残る。適正は120人だ。長浜養護の全体像が示される分教室案だけが先行するのは納得できない。

再編案には、信楽の町の教育資源や、当校が果たしてきた役割の評価がない。セラミックとデザインを一つにするなど、実態とかけ離れている。

信楽高校の分教室化は、原案がうたう「魅力と活力ある学校」に全く逆行している。昭和48年に甲南高校から独立したときの卒業生の答辞、「一番嬉しかったことは、夢とさえ思っていた学校の独立が実現したことだ。」

お父さんが失業し私立を受けられない子どもも

私立を受けられない子どもも

勉強から学びへ
小さな学校でこそ

私立を受けられない子どもも

自治会で班長さんが署名一軒一軒歩いた

絶対全日制にはまげへん

小さな（の評価）を積み重ねて実践をしている。伊吹高校の生徒に比べて「できない自分」を感じてしまう。小さな、をつけても、伊吹高校の中で大きなxがついてしまう。分教室には反対です。

2年の時は分校であるが故のコンプレックスを抱き、高体連や通学の電車の中で、自分の学校の名前を言えなかった。私たちに責任があるのか。念願がかなって独立し、信楽工業高校の生徒であることを誇りに思い、校名を汚さないように頑張りたいと決意した。私たちは、生徒に分校当時のつらい思いを絶対にさせてはならない。

これまでの一音授業で、生徒は先生に問われたいと答えたい。先生にだけ発言する。生徒と生徒の関係は希薄だ。先生の一部の子とやりとりをして、自分の計画通り授業を進める。ほめるより注意が多い。50分間しゃべりっぱなしだ。私もそんな授業でした。

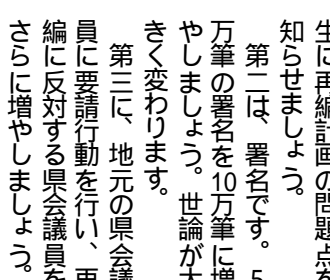
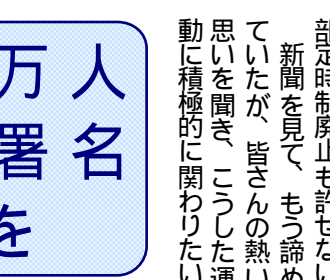
私は、再編案が出たとき、長浜北星の定時制が能登川高校に移ると思っていた。そして、能登川高校は湖北から遠い、地域の学校がなくなる、職業科が切り捨てられると、批判した。これらを突き詰ると、能登川高校がこれまでの定時制の代わりにならないことがはっきりした。北部定時制の3つは、完全に廃校であり、能登川高校は全く別の学校である。あらたな怒りが湧いてきた。北星に入学していた生徒たちは、どこへ行ったらいいのか。南部には、県立3校、私立2校の定時制通信制がなくなり、京都にいく選択肢もなくなる。滋賀県の北半分には何も無い。

以前、横浜市の弁護士は、「定時制高校の募集停止は人権・学習権の侵害に当たるから再検討せよ」と警告した。北部定時制全廃も学習権侵害だ。県の北半分から定時制の灯を消してはいけない。

「絶対全日制にはまげへん」との気概で生きて

卒業生がいつばいいる。卒業を迎えた日の晴れ晴れとした表情から見つめていた。娘が、県南部の定時制を卒業した。いろんな背景をもった方と友情を深く、生徒の事情を深く理解し支えてくれた先生へ

参加者数は、331人です。本日の集いは、全県の注目を集めています。ただ、運動は、また湖北・彦根・甲賀に限られています。今回の計画にストップをかければ、県は全県規模の廃校計画が出せません。3つの行動を呼びかけます。



私たちは今日、県下の各地域から、立場のちがいを超えて「滋賀の高校を守りたい」という、一つの思いで合流しました。7月11日に、高校の再編計画（原案）が発表されると、湖北、彦根、信楽など各地から反対や疑問の声が噴き出しました。県内7カ所の説明会で、県は破綻すみの統廃合の理由を並べるばかりで、地域の意見を聞き止めるよつとせず、火油を注ぐ結果になりました。「長浜北高と長浜北星の定時制を残せ」。いま、長浜で

この思いで、住民と議会は、この思いで、住民と議会と行政が一体となっていきます。市長は「地域の意見を聞かない再編は教育基本法違反だ」と述べています。長浜北高の同窓生は「生徒が学校を動かす力がある北高に、僕らは誇りを持って

財政難を子どもに押しつけるのか」と訴えます。そして、425の自治会を束ねる連合自治会が「到底納得できない。一旦立ち止まり熟慮を」と立ち上がりました。

5千500筆を集めました。「西高をつぶすな」の声を、またたく間に広がり、市議会は全会一致で「再編計画（原案）の白紙撤回を求める意見書」を採択しました。

信楽高校は地域の陶器産業の拠点だ。信楽では、高業の拠点だ。PTAなどが、ゆかた祭り、総踊り、土曜日曜この各戸訪問などで署名活動をおこなう。1ヶ月あまりの間に一万

全県で、集まった署名は5万筆に上ります。ここには、地域と地域の高校、子どもを大事にする地域住民の心が溢れています。

いま県議会では、統廃合問題に注目が集まり、大事な高校をつぶすのかどうか、各議員や各派の姿勢が問われる事態になっています。私たちは、県が、今回の統廃合計画原案をいったん白紙に戻し、県民の意見を聞き、根本的に検討し直すことを強く要望します。

2011年10月1日
高校の統廃合は許さない
10・1 県民のつどい

会場に寄せられたカンパは82,717円でした。ご協力ありがとうございました。

3市長から メッセージ

彦根市長 獅子山向洋氏
私も再編原案には絶対反対です。お互いに頑張りましょう。

甲賀市長 中嶋武嗣氏
信楽高校は滋賀県が誇る伝統産業の信楽焼を伝承していく全国でもまれな学校、存続について努めて参ります。

長浜市長 藤井勇治氏
県立高校の再編は、県民の皆さんが、理と解し支持する、夢と希望の改革でなければなりません。

10万人の署名を

第一は、署名です。5万筆の署名を10万筆に増やしましょう。世論が大きく変わります。

第二は、署名です。5万筆の署名を10万筆に増やしましょう。世論が大きく変わります。

第三は、地元の県会議員に要請行動を行い、再編に反対する県会議員をさらに増やしましょう。過半数の賛同が得られれば、再編計画をストップさせることができます。